

地域包括ケア病床からの転帰先としての自宅復帰に関する検討

～サブアキュートとして入院した患者とポストアキュートとして入院した患者の比較～

元井 光夫¹⁾ 児玉 悦志¹⁾ 腰塚 洋介¹⁾ 風晴 俊之²⁾ 美原 盤³⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 リハビリテーション部

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 事務部

3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経内科

[はじめに]地域包括ケア病床に求められる機能として在宅復帰がある。施設基準で求められる在宅復帰は自宅以外に居住系介護施設も含まれるが、患者は自宅復帰を望むことが少なくない。自宅からサブアキュートとして地域包括ケア病床へ入院してくる患者は、急性期治療後に転床してきたポストアキュート患者と比較し自宅復帰しやすい印象があった。そこで、サブアキュートとポストアキュートの患者について、自宅復帰率および身体能力等について検討した。

[対象] 2018年6月から2020年3月の期間において、自宅から直接地域包括ケア病床に入院した患者54名(サブアキュート群: 78.2±8.4歳、男/女 36/18)、自宅から急性期病棟に入院、治療を受け地域包括ケア病床に入院した患者117名(ポストアキュート群: 80.5±10.4歳、男/女 67/50)を対象とした。

[方法] 両群について、在宅復帰率、自宅復帰率、退院時FIM、同居介護者数、入院前の要介護度を調査した。

[結果] 在宅復帰率は、サブアキュート群が96.3%、ポストアキュート群89.7%と明らかな差は認めなかったが、自宅復帰率はそれぞれ88.9%、73.5%でサブアキュート群が有意に高かった($p<0.05$)。入院前の要介護度はそれぞれ2.1±1.8、1.4±1.7でサブアキュート群が有意に高かった($p<0.05$)。その他の項目に明らかな差は認められなかった。

[考察] サブアキュートとして地域包括ケア病床を利用する患者は、入院前から要介護度が高いにも拘わらず、自宅復帰しやすいことが示された。一方、我々は、これらサブアキュートの患者において入院前のADL介助量が多い患者は病前同様の状態になっても自宅復帰しにくいことを報告した(第38回関東甲信越ブロック理学療法士学会)。これらのことより、自宅復帰を実現するには介護保険サービスなどを利用して自宅療養環境を整備しておくこととともに家族の受け入れの理解を促進していくことが重要であると考えられた。